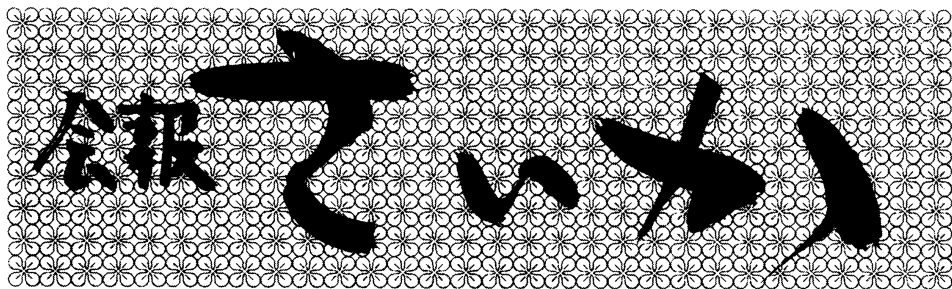


第 39 号

発行所

茶道裏千家淡交会
石川南青年部石川県小松市小馬出町 123
松本パークハウス 24 号
TEL0761-24-6457印刷社名
(株) 鶴川印刷

「持続可能な茶道」

茶道裏千家淡交会石川南青年部会報

第 22 回 少年少女
ジャンボリー

平成 25 年 7 月 21 日(土)、22 日(日)の二日間にわたって、小松市大杉町の大杉みどりの里において、第 22 回少年少女ジャンボリーが行われました。今年は大人数 23 名、夏の暑さにも負けないくらい元気な子供達 39 名が参加しました。

一日目は、蒔絵体験が行われ、山中塗蒔絵師の谷口博山先生を講師に招き指導していただきました。各々が考えたデザインをお盆に描いて金と銀の蒔絵をするというもので、好きな動物やキャラクターなど自由に描き、初めての体験でしたが楽しく取り組んでいました。夕食後には、青年部ジュニア委員が考案した屋内ゲームが行われました。茶道のクイズを取り入れた鬼ごっこスタイルのスリル溢れるゲームで、子供達はこのゲームに大変盛り上がり、楽しみながらお茶の知識にも触れられたようでした。

二日目には、和菓子作り教室が行われ、青年部会員でもある行松旭松堂の行松宏展さんによる指導で、涼しげな夏の和菓子と二種類作りました。細かい作業でしたが、大人も子供も行松さ

んの説明を真剣に聞き、きれいに仕上げていました。その後茶道体験があり、自分で作ったお菓子を食べた後、抹茶を頂き、お辞儀の仕方やお茶の飲み方をみんなで学びました。

とても暑い二日間でしたが、子供達はお茶を通じて新しい体験をしたり友達を作ったりと、夏休みの思い出の一つになったのではないのでしょうか。

(武田 奈津)



「ジャンボリーに参加して」

山根 華織

7月20日・21日に一泊二日で、大杉みどりの里において行われた、ジャンボリーに参加させていただきました。

最初の蒔絵体験では講師の谷口博山先生ご夫妻の指導をいただき、子供たちは個性あふれる絵を描き、金・銀の粉を蒔く難しい作業も熱心に、一生懸命取り組んでいました。

夕食後のオリエンテーションは、ゲームをしました。子供たちは、真剣で協力し合いながらすごく楽しそうでした。大人も一緒に楽しむことができました。

翌日の和菓子作りでは、行松旭松堂の行松宏展先生に指導していただき、夏の主菓子と二種類作りしました。柔らかい餡を包む作業が、大人でも難しかったのですが、子供たちはとても丁寧に仕上げていました。完成したお菓子と自分でたてた抹茶をいただく子供たちは、笑顔でうれしそうでした。

二日間元氣いっぱいの子供たちと一緒に、楽しく参加させていただきました。先生方、委員会の皆様方、本当にありがとうございました。



微妙会

平成25年8月8日(木)、当青年部で微妙会月金を担当いたしました。当日は強い日差しが降り注ぐ酷暑の中、日頃お世話になっている先生方をはじめ、たくさんのお客様にご来会いただきました。

今回は真夏の茶席ということで、お客様に少しでも涼を感じていただける趣向にと、お点前には蓮の葉による葉蓋を用い、ガラスの風炉先や菓子鉢など、涼やかな取り合わせを心がけました。お席のあと、お客様から「青年部らしい爽やかなお席だった」との声を聞き、とても嬉しく思いました。

当日は至らない点が多々あった事とは思いますが、何とかやり遂げることができたのは、日頃ご指導いただいている先生方のおかげだと改めて感謝しております。今後もお客様に喜んでいただけるより良い茶席ができるように青年部活動に取り組んでいきます。

(立花 千佳)



「微妙会に参加して」

喜多 晶美

暑い8月、石川南青年部が微妙会の釜をかけさせていただきました。

今年役員になり、初めての大きな茶会でした。何カ月も前から、会議を開き準備してきました。

緊張と不安でいっぱいだった当日の朝、朝礼で岩谷部長がおっしゃった、「お道具も大事ですが、一番はお客様を大切に…」その言葉でふっと皆の心が和み、改めて『今日一日頑張ろう』という気持ちになりました。

何から何まで初めてのことが多く、たくさんの人に助けられ、長い一日を終えることが出来ました。

相談にのってご指導してくれた親支部の先生方、お稽古に付合ってくれた社中の皆様、当日お手伝いに来てくれた青年部の皆様、一緒に準備をしてきた役員の皆様、そして暑い中、足を運んでくれたお客様、全ての方に心より感謝申し上げます。

これからも、お稽古に励み、さらに精進してまいりたいと思います。

平成二十五年八月八日

微妙会会記

於 小松市芦城公園内仙叟屋敷

主 茶道裏千家漢文会 石川南青年部

待合

河蟹

観林画

本席

坐忘斎御家元 雲去青山露

吾亦紅、桜葉、金水引、棕桐葉、花撫子

襖萩、刈萱

淡々斎好 三友龍

大徳寺黄梅院古村 銘 玉仲

ガラズ

黒雲華 利休好面取

真形 老松地紋

虫明焼

團扇時絵 鵬雲斎大宇匠箱

鵬雲斎大宇匠作共同箱 銘 喜雲

黒樂 鵬雲斎大宇匠箱

萩 平茶碗 坐忘斎御家元箱

替 十三代陶兵衛造

替 撫子絵 鵬雲斎大宇匠箱

蓋置 青竹

建水 唐銅

薄茶 坐忘斎御家元好 悠和の白

主菓子 交趾水玉透かし

器 稲穂せんべい すずめ

千菓子 小松天満宮古村 四方金 鵬雲斎大宇匠箱

簀子 銀杏透

火入 南京赤絵

煙草入 本地

煙管 八代清次郎造

以上

初心者のための

茶懷石講座

平成25年9月22日(日)、仙叟屋敷において初心者のための茶懷石講座が行われました。講師には懷石「万惣」店主の中尾英力先生をお招きし、熱心なご指導のもと茶懷石の基礎知識や作法について学びました。

午前中の講義では、茶懷石の歴史や茶事の種類、懷石道具について説明がありました。道具にもさまざまなあり、実際に並べられた道具を目にすることで、それぞれの違いや用途を分かりやすく比較することができました。

午後に入ると、先生からご飯の炊き方・盛り付け方・おこげの作り方等の実演があり、その様子を皆興味深く見入っていました。炊き立てのご飯を試食した際は、その美味しさに一同感激した様子でした。その後は茶懷石(一汁三菜)を美食しながら、配膳の仕方や食べる順番、亭主と客のやり取りについて楽しく教えていただきました。

この講座を通じ茶懷石の基本を学ぶことができ、会員にとって有意義な体験となりました。

(山本 千春)



「茶懷石講座に参加して」

岩谷 樹

茶事推進委員会企画の「初心者のための茶懷石講座」に参加させていただきました。懷石「万惣」の中尾英力氏のお話を伺うことができました。

また懷石での作法の講習のため、料理も頂くことができ、いろいろなものを消化できました。

中尾氏のお話の中で、茶道の所作や約束の多くは、禪宗の考え方や作法に基づいているというものがありません。禪宗の考え方を知らずして、茶道の作法の意味が理解しやすくなるそうですが、漢字をくずして平仮名を作ったように、日本はもともと柔軟な性格であ

るとも話され、実際に茶道においても真に対して行や草のくずしがあるとのことでした。

作法を守るばかりではなく、くずしてゆくことこそ日本的であるという中尾氏の考え方は、私にとつてとても新鮮で、またお茶の楽しみ方を広げられるものだと感じました。作法には主客がお互いを敬うことや、道具を大切に扱うという意味があるようですが、私は多くの茶会は作法や知識、稽古の成果などを披露するためにあるのではなく、お客様に楽しんでもいただくために行われるものだと考えています。道具を大切に扱うことはとても重要だと思いますが、その他の作法をどのくらい重視するかは主客の趣味や意向によって決めればよく、知っていれば守るに越したことはない程度だと思います。中尾氏のお話により、こういった私の考えがやや裏付けられた気がして少し安心しました。

また茶懷石でのご飯の炊き方とその意味を、実際にご飯を炊きながら教わりました。茶懷石では、おいしいというよりも尊いということが重要であり、米の一粒一粒に宿る神様を敬うため米粒が崩れないように炊くものであるというのは、これまで知らなかった考え方であり、とてもおもしろかつ

たです。

とても楽しい講座となりました。そのぶん手間をかけてご準備いただいた講師の中尾氏らと、茶事推進委員会の方々には、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。



卒業茶会・納会

平成 25 年 11 月 30 日(土)、仙叟屋敷ならびに玄庵において卒業茶会が行なわれました。平成 24・25 年度の卒業生をお迎えしての正午の茶事。先輩方にはいつも教わる事が多く、これまでお世話になった感謝の気持ちを込めて役員一同この日を迎えました。

まずは前日の暴風雨で荒れたお庭の掃除からスタート。竹箒など追いつくはずもなく、ブローアーも持ち出しての大仕事となりました。今回の茶事は役員それぞれが初めて挑戦する事も多く緊張感漂う中、初炭から始まりました。

懷石では担当していただいた岩谷孝子先生に教わりながらも、九月の茶懷石講座で学んだ知識や所作を思い出し実践する場となりました。その後は濃茶、後炭、薄茶と進み、慣れないながらも無事終えることができました。役員にとつては反省点や今後の課題も沢山見につき、次に取り組むための勉強になる貴重な体験となりました。

夜には納会が行なわれ、部長の挨拶をはじめ卒業生の皆様からの一言スピーチ、活動を振り返りながらの思い出話など会話に花が咲きました。最後は行松直前ブロック長の一本締めにてお開きとなり、一年の締めくくりとなりました。

(掛村 敦子)



「卒業茶会に参加して」

行松 明美

11月30日に青年部を卒業する先輩への感謝の気持ちを込めて、「正午の茶事」でおもてなしをさせていただきました。何度も何度も会議を重ね、お道具組や、役割分担、綿密なタイムスケジュールの完成。幹事長先生をはじめとする親先生の多大なサポートに助けられてのいよいよ当日。経験不足の私たちは、ハラハラドキドキ。一人一人が最大限に頭を回転させて、必死に取り組んで時間が過ぎて行きました。結果的には、終了時間が1時間40分オーバーの長茶事になってしまいました。それでも最後までわたしたちを優しく見守って下さった先輩たち、本当にありがとうございます。偉大さが身にしみました。「卒業」という響きはとても寂しく感じますが、青年部活動によって出会うことができた先輩方とのこのステキな縁をこれからもずっとずっと大切にしていきたいです。先輩たちのように次の世代へ繋げられるよう頑張ります。

今まで本当にありがとうございました。



青年部卒業に寄せて

平成24・25年度の青年部卒業生の方々に、今回卒業によせて今までの思い出など寄せていただきました。

「いよいよ卒業茶会にご招待されて」

平成25年度卒業 中村 勝

十一月末日、朝から青空も覗くまずまずな天気だったのは、日頃の青年部の皆様の心がけが良かったからでしょう。

青年部の行事で、何度もお水屋のお手伝いをさせていただいた仙叟屋敷だけでなく、玄庵も貸し切つての正午のお茶事での卒業茶会で、思い出に残るお茶会を楽しませていただきました。

お道具も素晴らしく、中には青年部の先輩の作家さんの作品や、現役青年部の方が作ったお道具やお香などもあり、青年部で体験させていただいた、色んな思い出を懐かしく振り返らせていただけました。

今後とも青年部OBとして、微力ながら青年部活動に協力出来れば、と思っております。

青年部を卒業しても、お茶を通じた仲間として、これからもよろしくお願ひします。



平成24年度卒業 大幸英里子

青年部を卒業して一年が経ちましたが、改めて思うことはお茶のことはもちろん本当に色々な勉強を青年部ではさせて頂いたことです。

卒業となると皆さんとお会いできる機会が少なくなることがとても残念ですが、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



平成 24 年度卒業 梶井 美佳
楽しい思い出と茶の道の友をいた
いた青年部でした。自分達で企画して
茶会や行事を経験した事が自分の人生
に役立っています。たくさん財産を
有難う。

平成 25 年度卒業 佐々木隆子
感謝!!
先日は、卒業茶会にお招きいただき、
有り難うございました。

卒業と思えば寂しい気がしておりま
したが、皆様が卒業生の門出を祝つて
下さっている趣向を感じられて、清々
しい思い出になりました。

二年間しか在席できませんでしたが、
快く迎えて下さった皆様、そしていろ
いろな行事に新鮮さを憶えた事これか
らの糧にしたいと思います。

今後一層の青年部の御活躍に期待し
ております。

「卒業は寂しいですが」

平成 25 年度卒業 西田ゆかり

青年部に入会していろいろな人のご
縁、経験のご縁をいただきました。入
会を勧めて下さった先生、継続を応援
して下さい OB の方々に感謝してお
ります。ありがとうございます。

今後もこのご縁を大切に豊かな日々
を過ごして行きたいと思っております。
青年部の皆様の益々のご発展を楽しみ
に卒業させていただきます。

ありがとうございます！

平成 25 年度卒業 山本登志美
広報委員に始まり、広報委員として
長年の青年部活動も無事終えることに
なりました。

もうあまり知る人も少なくなりました
が、この機関紙に「さいか」と名づ
けたのは私でした。このわが子よう
な「さいか」をこれからの広報委員の
皆さんに託します。次号からも楽し
みにしています。

お茶について自ら勉強し実践する、
時には失敗もありましたがとても充実
した青年部活動でした。

いま、お茶を通して知り合えたたく
さんの仲間と友情に心から感謝してい
ます。

諸先輩の皆さま、青年部の皆さん、
長い間本当にありがとうございます。

「さいか（細花）」とは？

細かい花のようにお茶が点つてい
る様子を表した言葉。

会員一人一人は小さい花かもしれ
ませんが、みんなが集まって青年部
として一つの大きな花を咲かせてい
けるように、という気持ちで込めら
れています。

編集後記

この広報委員会は、今回卒業される
山本登志美さんと西田ゆかりさん、
佐々木隆子さんという三人の大先輩を
擁しており青年部でも強力な委員会だ
と思っております。

今後委員会や会議からお三方がいな
くなってしまうと思うと、とてもとて
もさびしくなってしまう。

またお茶会のお手伝いやお茶を頂く
際にも色々ためになるお話など、広報
委員会の後輩として目をかけていた
くことができませんでした。

まだまだ力不足ではありますが、今
後の「さいか」や広報委員、青年部を
みんなと一緒に盛り上げていけたらと
思います。これからも楽しい紙面作り
を目指していきますので、ご指導・鞭
撻のほどよろしくお願いいたします。

(依田 毅)

青年部会員募集中

私たちと一緒に活動しませんか？
詳しくは・・・

淡交会事務所

(0761-24-6457)

石川南青年部部長 岩谷

(0761-22-6311)